

鎌倉響交響楽団

第85回定期演奏会
2005年6月12日(日)
午後3時開演
鎌倉芸術館大ホール

【後援】鎌倉市教育委員会・鎌倉エフエム放送

プロフィール

指揮 / 小田野 宏之 (おだの ひろゆき)



横浜生まれ。1980年東京芸術大学音楽学部指揮科卒業。1983年同大学大学院音楽研究科修了。大学在学中、指揮法を金子登、渡邊曉雄、ピアノを水谷達夫、フルートを川嶋俊の各氏に師事。1983年より1985年まで、国際ロータリー財團奨学生としてウェイン国立音楽大学へ留学。指揮法をO.スワードナー、P.シュヴァルツ、ピアノをR.ハイシツ、オペラ伴奏法をH.ゲルツの各氏に師事し、研鑽を積む。

1982年第17回民音コンクール指揮の部第3位入賞、同時に「斎藤雄輝賞」受賞。1984年オランダで行われた第1回キリル・コンドラシン国際指揮者コンクールに於いて第2位入賞。アムステルダムのコンセルトヘボウ大ホールに於いてオランダ放送フィルハーモニー管弦楽団を指揮してヨーロッパにデビューを飾る。

留学中よりオランダ放送交響楽団、オランダ放送室内管弦楽団に在籍したびご客演し、演奏会のはか放送用の公開録画、録音を数多く指揮。また1986年2月には北オランダのフリースラブ管弦楽団定期演奏会に日本人として初めて登場し、成功を収めた。

国内では全国各地の主要オーケストラを指揮するほか、1985年より1988年まで牧阿佐美バレエ団指揮者として全ての公演を指揮する。また1991年には横浜モーファルトのオペラ「コシ・ファン・トゥッテ」を指揮し、バレエ、オペラの分野でも高い評価を得ている。吹奏楽では東京佼成ウインズオーケストラとの共演も多く、定期演奏会の指揮をはじめ、特に邦人作品のCDは各方面より絶賛されている。

1989年大阪センチュリー交響楽団設立の際は、楽員オーディションの審査やオーケストラのトレーニングに尽力し、同交響楽団指揮者として1992年3月まで活動。1995年より2002年まで広島交響楽団正指揮者をつとめ、定期演奏会をはじめさまざまな演奏会を数多く指揮し、広島交響楽団の発展に大きく貢献した。2002年9月にはNHK交響楽団定期演奏会に合明指揮者として参加、シャルル・デュワ指揮によるシマノフスキイの「スター・バト・マーテル」とオペラ「ロジエ王」の本邦初演を大成功に導いた。

土記の他これまでに札幌交響楽団、静岡交響楽団、新日本フィルハーモニー交響楽団、東京シティフィルハーモニック管弦楽団、東京都交響楽団、東京フィルハーモニー交響楽団、日本フィルハーモニー交響楽団、名古屋フィルハーモニー交響楽団、大阪フィルハーモニー交響楽団、九州交響楽団などに客演。その誠実な指揮ぶりと豊かな音樂性は高く評価されている。

現在東京芸術大学非常勤講師及び大阪音楽大学特任教授として、後進の指導にもあたっている。

ヴァイオリン独奏 / 水島 愛子 (みずしま あいこ)



鎌倉市に生まれる。3歳より才能教育研究会にて、中村太郎、鈴木鎮一両氏に師事。その間、父故小森英正(元N響ピオラ奏者)に師事。17歳より宗倫安氏に師事。

桐朋学園大学音楽学部弦楽科卒業後、ウェイン国立音楽大学にて、エディット・シュタインバーグ、フランツ・サモヒル両氏に師事。室内楽をアルフレッド・シュタール氏に師事。

1971年、ウェインのヨーゼフ・ハイドン弦楽四重奏団コンクールにて第一位受賞。翌年にはライプツィヒ市における第四回J.S.バッハ国際コンクールヴァイオリン部門にて特賞を受ける。

1973年、ウェイン国立音楽大学を首席で卒業後、ニューヨークブルックリン・シンフォニーオーケストラにソリストとして迎えられる。1976年、バイエルン放送交響楽団に入団。翌年、同楽団首席メンバーと「アルナス弦楽四重奏団」を結成し、ヨーロッパ各地にて活躍。その後も「オルビス弦楽三重奏団」等の室内楽グループを結成し、日本、ヨーロッパ各地にて活躍。

サイトイキネン創立メンバーとして定期参加。

指揮者としても「オーストリア・室内楽フェスティヴァル」の一環で、「子供ヴァイオリンコース」を長年主任指導。また、上オーストリア州政府の奨励にて、音楽教室ヴァイオリン指導者の指導にも当たる。近年はオーケストラの傍ら、演奏活動また、ミュージベンとパート・デルツ国で後進の指導に力を入れている。

トレーナー (敬称略) さ今回の演奏会にあたり、ご指導いただきました。

井田勝大、小泉智彦、五島研一、角哲史、平林剛

鎌倉交響楽団第85回定期演奏会

Kamakura Symphony Orchestra The 85th Regular Concert

【指揮】：小田野宏之
Hiroyuki ODANO, Cond.

W.A. モーツアルト：
Wolfgang Amadeus Mozart

歌劇「魔笛」序曲
"Die Zauberflöte" Overture

P. チャイコフスキー：
Peter Tschaikowsky

ヴァイオリン協奏曲ニ長調作品35
Violin Concerto in D major, op.35

I: Allegro moderato
II: Canzonetta: Andante
III: Finale: Allegro vivacissimo

-----休憩 Intermission -----

J. シベリウス：
Jean Sibelius

交響曲第2番ニ長調作品43
Symphony No.2 in D major, op.43

I: Allegretto
II: Tempo andante, ma rubato
III: Vivacissimo
IV: Finale. Allegro moderato

《製作・修理・毛替・販売》
弦楽器工房かわばた



TEL 045-261-5300 〒231 横浜市中区花咲町2-77 大久保ビル2F ●営業時間/AM10:00~PM7:00 (日・祭休)

プログラム・ガイド

モーツアルト作曲 歌劇「魔笛」序曲 K.620

5歳から作曲を始め、6歳にして一流のピアニスト、11歳で既にオペラを作曲して神童と呼ばれ、35歳の若きで死んだモーツアルトが、最後の年の1791年に作曲した「魔笛」は「フィガロの結婚」「ドン・ジョヴァンニ」とと共に「モーツアルトの三大オペラ」と呼ばれ、特にこの曲は彼のオペラの集大成でもあり、後世の作曲家たちに大きな影響を与えた。

架空の時代のエジプトを舞台にした約2時間半のオペラの、美しい和音から始まり弦楽器と木管のフーガが繰り返され、現在では序曲として単独で演奏されることも多い人気の高い名曲である。

チャイコフスキー作曲 ヴァイオリン協奏曲 二長調 作品35

チャイコフスキーの数ある名曲の中には現在の確固たる名声・人気とは全く違ひ、発表されたその当時不当に冷遇された曲が少なくない。その代表的例が「ピアノ協奏曲No.1」であり、それよりもっとひどい評判だったのがこのヴァイオリン協奏曲であった。

ラロの「スペイン交響曲」に魅せられたチャイコフスキーがあのような曲を書きたいとわずか1ヶ月で書き上げたが、当時の世界的ヴァイオリニストのL.アウアによって演奏不可能と拒否され、3年後にやっとA.プロドスキーによって初演された。しかし指揮者もオーケストラのメンバーもこの曲を嫌ってひどい演奏となり、そのためか大物評論家から「とんでもないむかつくな」品と酷評され、かのマック夫人もこの曲だけは認めなかった。それでもこの曲の素晴らしさを信じて疑わなかつたプロドスキーが何度も演奏し続け、やっとこの曲の真価が認められるようになり、アウアも自分の非を反省しチャイコフスキーに謝罪した。以後彼もこの曲をたびたび演奏し、弟子のジンパリストやハイフェッツ達に引継ぎ、今日のような「4大ヴァイオリン協奏曲」の一つに称せられる基になった。(他にベートーヴェン・メンデルスゾーン・ブラームスの協奏曲があるが4人共生涯に一つしかヴァイオリン協奏曲を作曲しておらず、それらが全て最高傑作であるということは偶然とはいへ大変面白い事実である。)

この協奏曲の特色は、ロシア民族風の哀愁こもる耽美的な旋律を使い、ヴァイオリン独特的華やかな近代的演奏技巧を十分に發揮出来るような、また色彩豊富な管弦楽用法を駆使したそれまでにない新鮮な曲、ということである。

プログラム・ガイド

シベリウス作曲 交響曲 第2番 ニ長調 作品43

1957年に亡くなったフィンランドの国民的作曲家シベリウスは20世紀最大のシンフォニスト（交響曲作曲家）とも呼ばれており、第7交響曲まで残している。

医者の家に生まれたシベリウスは5歳頃よりピアノ、14歳よりヴァイオリンを学び、初の作曲は10歳の時。ヴァイオリン奏者を目指しヴィーンフィルのオーディションを受けたりもしたが、あがり症の性格のため学内コンサートで失敗し、それがヴァイオリンをあきらめるきっかけとなつた。そして同郷の先輩カヤヌスが作った交響詩「アイノ」を聴いたことから自國の文化に根ざした作曲家を志すようになるわけである。ヘルシンキ音楽院を卒業、ベルリンやウィーンでの留学、研鑽の後、同音楽院の教授になり、翌年フィンランドの伝承叙事詩「カレワラ」に基づく「クレルヴォ交響曲」を発表、大成功を収めた。

1897年にはフィンランド政府から民族精神への功績として終身年金を贈られ、このことで生活の心配のなくなったシベリウスは音楽院の教授を辞し作曲に専念することになった。その翌々年に作られたのが第1交響曲と、その経緯が独立してあの有名な交響詩「フィンランディア」になった組曲「歴史的情景」、その3年後の1902年に発表したのがこの第2交響曲、彼の代表作の一つになるヴァイオリン協奏曲はそのまた翌年の1903年である。

1924年に第7交響曲、翌年にやはり「カレワラ」に基づく交響詩「タビオラ」を書いてからシベリウスは創作意欲を失ったのか1929年以降28年間の沈黙の後、92歳で亡くなった。

この曲をシベリウスの「田園交響曲」と呼ぶ人もいるが、彼の親友、そして指揮者であるゲオルク=シュネーフェイヒのこの曲についての言葉をそのまま紹介する。

第一楽章：フィンランドの静かな牧歌的生活を描いた

第二楽章：愛国的情感に染められているが政政の下で暮らしているフィンランド人の心はまだ内氣でおずおずとしている

第三楽章：フィンランド国民の愛国的精神の目覚めを表している

第四楽章：帝政ロシアの圧政から開放される希望があらゆるフィンランド人の胸にわき立つてお、開放が聞近いという確信に満ちている

(桐本 圭三)

世界で一番小さいデパート
アトリエ K&T

古布ちりめんの香袋など
オリジナル商品、かわいいもの、素敵なもの、
両手いっぱいにあります!

営業時間/11:00 ~ 17:00 定休日/月、火曜日
千葉市 248-0003 鎌倉市 深町3-2-27 TEL.0467-22-2615

北鎌倉営業室ギャラリーにて
6月22日(水)から26日(日)まで
第3回アトリエK&T(深町店)
日臨時感謝セールをおこないます。
同時に開催和に遊ぶ、「ちりめん細工、
他…」紙に遊ぶ(デコパージュ)

古布にこだわって必要な保険とは…
深町店:アトリエK&T
桂浜天神店:わや

フリーワイアル 0120-50-2615
<http://homepage3.nifty.com/k-t/>

団員出演者名簿

| | | |
|-------------------------|-----------------------------|---------------------------|
| 常任指揮者：古谷 誠一 | コンサートマスター：五味 俊哉 | マネージャー：芋川 敦/今城信彦 森久二子 |
| 名脳団長：日比谷 幸一郎 団長：山木賢一 | 事務局：田中 幸一 副団長：小原 克馬/河原 寛 | 会計：曾根民子 ライブラリアン：三門 カカエ |

| | | | |
|------------|---------|---------------|-----------------|
| 1st Violin | Viola | Piccolo&Flute | Horn |
| 青柳 由紀 | 城島 純子 | 菊竹 秀夫 | 白井 賢司 |
| 有田 静 | 小原 克馬 | 曾根 美樹 | 福地 伸希 |
| 遠藤 勝智 | 鶴 成美 | ● 高橋 弘子 | 宮崎 敏幸 |
| 小原 浩子 | ● 佐々木敬史 | 中澤茉莉子 | 山崎 和之 |
| 川西 清美 | 中川 孝之 | 山田 美奈子 | 山田 克彦 |
| ● 河原 寛 | 中村 恵 | Oboe | Trumpet |
| 桐本 仁三 | 正木 基身 | ● 佐野 葵菜 | 津金 勝枝 |
| 五味 晶子 | 三門 カカエ | 中橋 英純 | 浜野 稔平 |
| ● 五味 俊哉 | ● 水上 清 | 山岸 一哉 | ● 福地 伸榮 |
| 菅井 直介 | Cello | ● 山本 賢二 | 森 久仁子 |
| 鈴木 那矢子 | ● 鹿田 達男 | Clarinet | Trombone & Tuba |
| 高橋けい子 | 梶 淳子 | 内田千枝子 | 有賀 功 |
| 広木 孝嗣 | 佐藤 洋子 | 片山眞知子 | ● 桜井 貞志 |
| 堀田 昌希 | 重兼 寿夫 | 志村 美緒 | 瀬島 一海 |
| 八木 育江 | 中野 太一朗 | ● 前沢 実 | 府川 创作 |
| ● 新井 俊成 | 田中 幸一 | Bassoon | ○ 煤孫さえ子 |
| 石橋 智子 | 中井 良樹 | 鹿島 健太 | Percussion |
| 井上 康男 | 中野 太一朗 | ● 西山 優子 | 明村 直美 |
| 大谷多満江 | 大谷 多満江 | 若山 五郎 | 今城 信彦 |
| 大野 勉士 | 大野 勉士 | 松本 祐子 | ● 太田 純 |
| 重慶 文恵 | 重慶 文恵 | 三原 一真 | |
| ● 白木 千晶 | Bass | ● 矢吹 紀子 | |
| 曾根 民子 | 梅沢 定彦 | | |
| ● 高橋 良子 | 大内 達郎 | | |
| 姫島 茂樹 | 佐藤 正 | | |
| 徳田みづえ | 中村 安孝 | | |
| 富岡 陽子 | ● 原 宏造 | | |
| 中橋 美木子 | 福島 曽哉 | | |
| 中村 順子 | 矢野 健 | | |
| 馬場 葉子 | 渡辺 均 | | |

●:パートリーダー

○:団友

鎌倉交響楽団 演奏会のご案内

♪第29回室内楽演奏会：

- ・日 時：2005年8月6日（土）14時開演予定
- ・場 所：鎌倉生涯学習センター ホール
- ・入場料：無料
- ・曲 目：小編曲のアンサンブルを予定しています。

♪第30回定期演奏会：

- ・日 時：2005年11月5日（土）14時開演予定
- ・場 所：鎌倉生涯学習館 大ホール
- ・入場料：¥1,000-（全自由席、当日券有り予定）

曲 目：ラフマニノフ/セビリアの理髪師序曲、

モーツアルト/ピアノ協奏曲第23番K488、

ドヴォルザーク/交響曲第8番

・指揮：猪島 雄人 ピアノ独奏：宮澤 明子

♪第3回合唱公演 第11回演奏会「賛助出演」：

- ・日 時：2005年9月19日（土・祝）14時30分開演予定
- ・場 所：鎌倉生涯学習館 大ホール
- ・曲 目：ブームス/ディープ・シーエム地
- ・指揮：星野 聰

鎌響第85回定期演奏会に寄せて

洋の東西

小田野 宏之

今シーズンの鎌響との練習が始まって間もなくの4月半ばに、南ドイツのスイス国境の街コンスタンツにある南西ドイツフィルハーモニー管弦楽団の定期演奏会を指揮してきました。私はオーストリアやオランダのオーケストラを現地で指揮した経験は何度もありますが、ドイツのオケをドイツで、しかも曲目がベートーヴェンとなると、自分の音楽家としての総合力テストを受けるようなものなのに、その緊張よりも演奏の喜びに対する武者震いの方が勝って乗り込んでいました。

コンスタンツのオケは、ベルリン・フィルや本日のソリスト水島さんが在籍されているバイエルン放送交響楽団などに比べるとランクはずっと下になりますが、それでもれっきとした「ドイツの」オーケストラです。ベートーヴェンの第7交響曲は私などよりもずっと良く知っているはずなのですが、1回目の練習では和音や音程は揃わず、リズムの感じ方もまちまち、テンポ感すらひとつにならず、私は内心びっくりしながらも予想通りの「外国のオケらしさ」にニヤニヤてしまいました。日本のオケが練習初日の最初の演奏でもニュートラルではあるけれどほぼまとっているのに対して、彼らは感じ方も音も凸凹していて演奏も一見バラバラ、日本の感覚からすると「本当にプロ?」というほどの拙わさ加減です。しかしそこで慌てて「演奏を整える棒」を振り出すと、もう指揮者の負けになります。彼らは凸凹演奏しながらも、私がどういう音楽をやろうとしているかを実に良く見て(感じ)いるのです。面白いのはそれから先の反応で、彼らは自分のリズム、自分のテンポ、自分のフレーズを最大限に尊重しつつ(つまり頑なに堅持しつつ)、その上で指揮者の、あるいは他のパートの音楽と一体化していこうとするのです。「こうしませんか?」と言うと一瞬でその音楽に変われる我が国のオケとは、その変化の過程が本質的に違うのですね。ですから指揮者にも、相手の個性や主張を上手に活かしながら自分の描く全体像の中へ自然に取り込んでいくことが、いつも以上に求められるのです。

何度もやってもうまくいかないところや、あまりに極端に別の



鎌響第85回定期演奏会に寄せて

方向の音楽になってしまったところなど、「もうちょっとこうしましょう」と言うのですが、納得できない、あるいは良くわからない時ははっきりそれを示します。また理由をしっかりとつけて説明すると何だか心から本当に納得したような反応になるのも興味深いところ。そしてその反応の仕方が実に音楽的です。

「大きいと言われたから小さくする」ではないんですね。そういう過程の中でも、演奏が整わないのは自分たちの責任、音楽が整わないのは指揮者の責任みたいな姿勢が一貫していて、これも我が國とは大きな違いです。そんなこんなで信頼関係が確立すると、練習2日目後半から当日のゲネプロあたりでの凄い進歩を見せ、あれほど凸凹だった凸はそのまま活かされ凹がうまくカバーされた、明快さと奥行きとを兼ね備えた一体感が出てきたのには、私自身驚くと同時に感動していました。

こうして出来上がった演奏には、それだけの自信と強さがあります。本番を振りながらそこに至る様々なプロセスを思い出し、思わず涙ぐみそうになる瞬間が何度もありました。

今日の本番でも、洋の東西、プロアマの違いはあるにしろ、自信と強さのある演奏が聴衆の方々のハートにしっかりと届くよう、音楽を演奏する者としてベストを尽くしたいと思います。凹よりも凸が踊る演奏をご期待ください。

(写真は4月にドイツで撮影されたもの)



(有)関口調剤薬局

本店 横須賀市上町2-3
tel.046-824-5885
fax.046-824-9795

支店 横須賀市上町2-20
tel.046-826-2350
fax.046-826-2301

URL:
<http://sekiguchi-pharmacy.co.jp>

和風居酒屋 花のれん

▷ 営業時間 ◁
平日 PM4:30~AM12:00 休日 PM3:00~AM12:00
大晦日・元旦 休業
(0467)46-0060



健保・労災取扱

大船接骨院

佐藤元一

大船駅東口ルミネ前

サトウビル
☎0467(45)6700代

耳鼻咽喉科、アレルギー科、神経耳科(めまい診療)

芋川耳鼻咽喉科クリニック
鎌倉・小町壱番館ビル3階 院長 芋川英紀
電話 (24)7273

最近楽器の調子はどうですか?

金管木管楽器修理

RepairShop **Groove**
for musicalinstrument Brass&Wood Wind

お問い合わせは
TEL.045-753-7559 E-mail groove@line.jp

詳しくは!
<http://www.e-line.jp/~asakaban1313/index.htm>

JURI et MODE

鎌倉市御成町11-2
(やのやビルB)
TEL.(0467)22-4105
茅ヶ崎市中海岸1-1-58
(大通ビル1F)
TEL.(0467)87-1145



珈琲・洋菓子

179

小町通り (22)2689
(22)8063

信頼と確かな技術の店
メガネの専門店

八幡宮商店通り

森川眼鏡店

メガネの事ならなんでも相談
お気軽に。

- 遠近両焦点レンズ
- 中近両焦点レンズ
- 近両焦点レンズ

あなたに合ったメガネを
お調製致します。



クラリネット

レッスンしてみませんか?
(フリークタイム制)



KAMAKURA
MUSICA

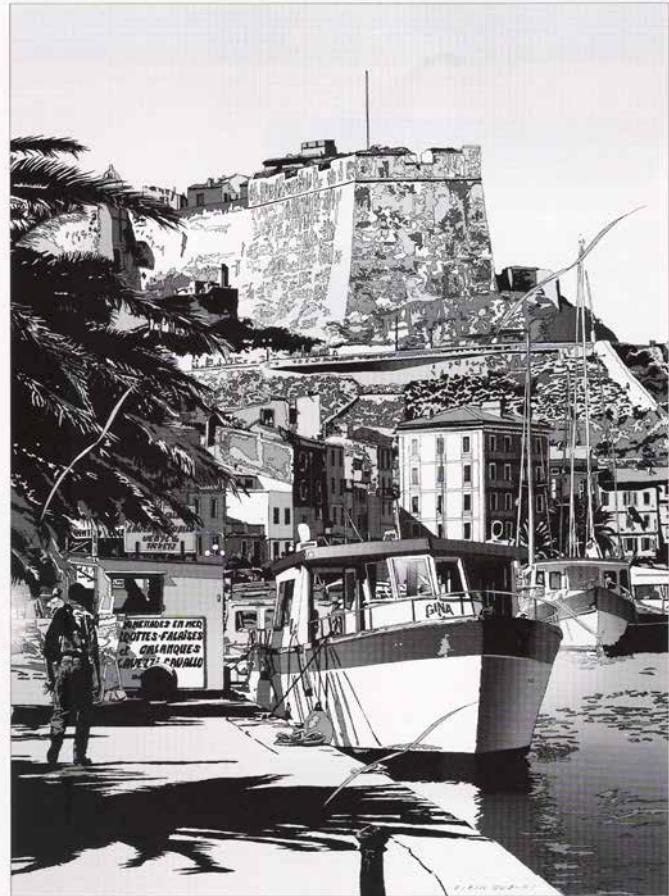
カマクラムジカ
TEL.0467-24-8766
FAX.0467-22-9755

〒248-0003 神奈川県大船町1-33 (併)事務所
e-mail : info@kamakura-musica.com
定休日 : 木・祝祭日

横浜市戸塚区戸塚町3755-1-1-307

川下方 TEL. 045-865-4885

片山クラリネット教室



C EIZIN SUZUKI

SHONAN

湘南信用金庫